

平成 29 年 8 月 27 日 (日)

おかだくにいせき

## 岡田国遺跡現地説明会資料

調査場所 木津川市木津馬場南

調査期間 平成29年4月19日～平成29年8月下旬(予定)

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター  
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3  
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

## 1. はじめに

今回の調査は国道 163 号木津東バイパス事業に伴い国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所の依頼を受けて実施しました。調査地周辺には木津川左岸に設けられた古代泉津の推定地である上津遺跡や奈良時代の史跡神雄寺跡(馬場南遺跡)などがあります。

岡田国遺跡は昭和 52 年に第 1 次調査が行われ、今回は第 5 次調査になります。平成 28 年度の第 4 次調査では、奈良時代の道路によって区画された建物群や井戸などを検出しました。

## 2. 調査の概要

今回の調査では奈良時代と平安時代の遺構を確認しました。

## (1) 奈良時代

**建物 5** 第 4 次調査で検出した建物 5 の北側部分を検出し、南北 5 間 (9.3m)、東西 2 間 (3.2m) の掘立柱建物であることが確定しました。建物 5 は、建物 6 を建て替えたものです。

**道路 1** 第 4 次調査で検出した道路 1 の北側延長部分を検出しました。道路 1 は 2 条の溝 S D160・190 と路面から構成され、前回の調査分と合わせて約 51m 分を検出しました。

**溝 S D302** 調査区中央付近の南辺に沿って東西方向の溝を検出しました。検出長は 20.3m、幅約 0.3m、深さ約 0.1m の規模があります。第 4 次調査で検出した建物群の北側を区画する溝と考えられます。

**溝 S D460** 調査区東側の中央付近で南北方向



第 1 図 調査地位置及び周辺主要遺跡分布図

1. 岡田国遺跡 2. 史跡神雄寺跡(馬場南遺跡)  
3. 作り道遺跡 4. 上津遺跡 5. 上北遺跡

の溝を検出しました。検出長 23.5m、幅 0.3～1.1m、深さ約 0.1m の規模です。S D460 を境に建物群や溝群が区画されています。

**溝群 1** 2.6～4m 間隔で平行する東西方向の溝群です。溝の長さは 19.6～28.2m、幅 0.3～0.7m、深さ約 0.2m の規模で、東から北に 7 度振っています。

**溝群 2** 方位と溝幅の異なる 2 種類の東西方向の溝が見つっています。溝幅の広い一群は 2.5～3.2m 間隔で平行します。溝は長さ 28.5～29.6m、幅 0.8～1.0m、深さ 0.1～0.3m で、西に向かって深くなります。溝は総じて東で北に 4 度振っています。

一方、溝幅の狭い一群は、2.5～3.0m 間隔で平行します。溝は長さ 3.0～13.3m、幅 0.2

～0.3m、深さ約 0.1m です。溝の方位はほぼ東西方向です。第 4 次調査でも同様の溝が建物群の東側で見つっています。

## (2) 平安時代

調査区西側より平安時代の掘立柱建物 2 棟と埋納遺構 1 基を検出しました。

**建物 11** 南北 4 間以上 (9.1m 以上)、東西 3 間 (6.9m) の掘立柱建物で、西側と南側に廂が付きま。柱穴掘形から平安時代中頃の黒色土器が出土しました。

**建物 12** 建物 11 に重複して検出した南北 3 間 (7.0m)、東西 2 間 (5.0m) の掘立柱建物です。遺物は出土していませんが、建物の方位から平安時代のものと考えられます。

**埋納遺構 S X475** 土師器甕に土師器皿をかぶせて蓋にした状態で埋められていました。甕の中からは何も見つかりませんでした。建物に伴う地鎮に関する遺構と想定できます。

## 3. まとめ

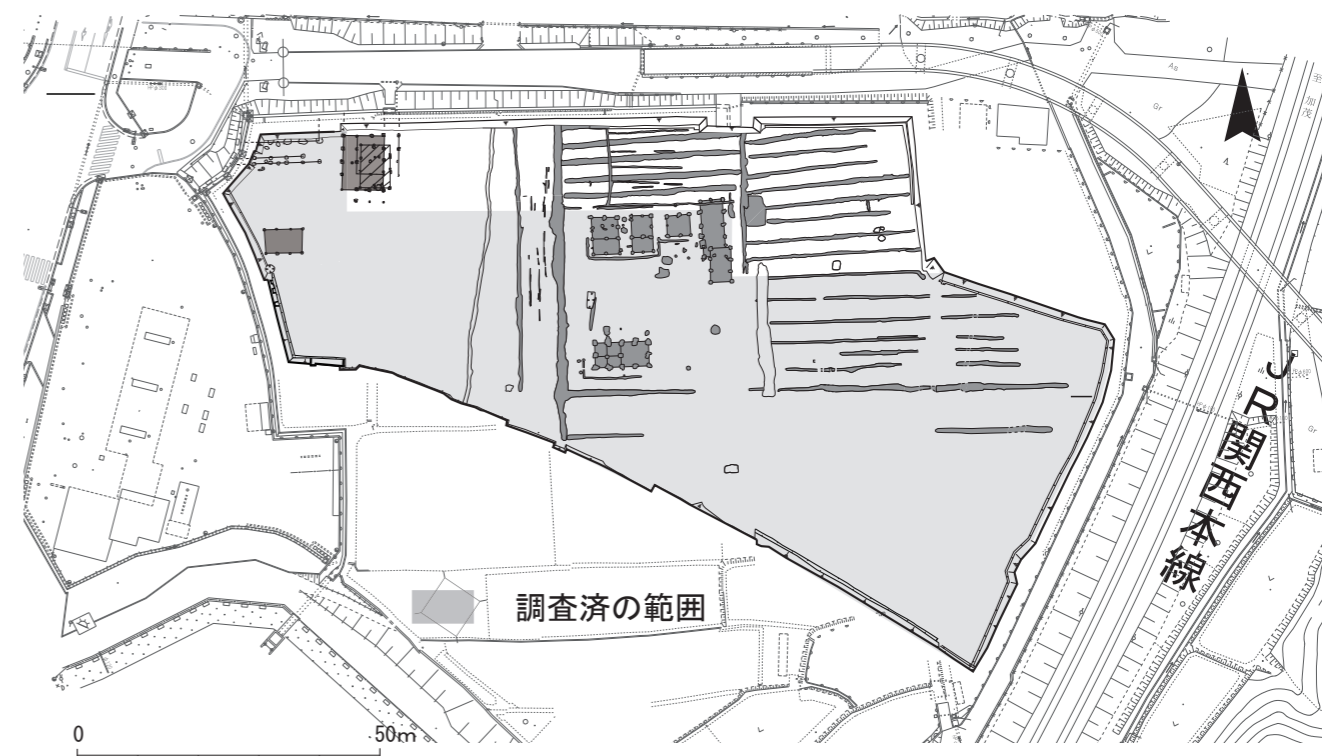
第 4 次調査で検出した奈良時代の建物群の北側と東側には溝群が存在することが分かりました。この建物群は溝 S D302 と溝 S D460、昨年度の調査で確認した道路 1・2 に

よって囲まれた範囲を敷地としていますが、その規模は平城京における 1/16 町規模 (約 33m 四方) の宅地とほぼ同じ大きさです。

また、溝群 1・2 は 1/16 町規模の敷地とは平面的に重複しないことから、建物群の北側や東側に計画的に掘られたと考えられます。溝の方位が若干異なっており、溝の掘られた時期が少しずつ違う可能性を示しています。用途については、今後、溝内の土の花粉分析を行う必要がありますが、耕作に伴う溝の可能性もあります。

以上のように、1/16 町四方の敷地の中に建物群と井戸が計画的に配置され、その周囲には耕作に伴う溝群が広がることから、野菜や雑穀などを栽培する畑とそれを管理する施設であったと想定することもできます。

平安時代中頃の建物 11 は、真北に主軸を持つ点や西・南側に廂が設けられている点、そして鉄鉢形土器や転用硯が出土していることから、公的な施設であったかと考えられます。しかし、具体的な性格については今後検討する必要があります。



第 2 図 岡田国遺跡調査範囲

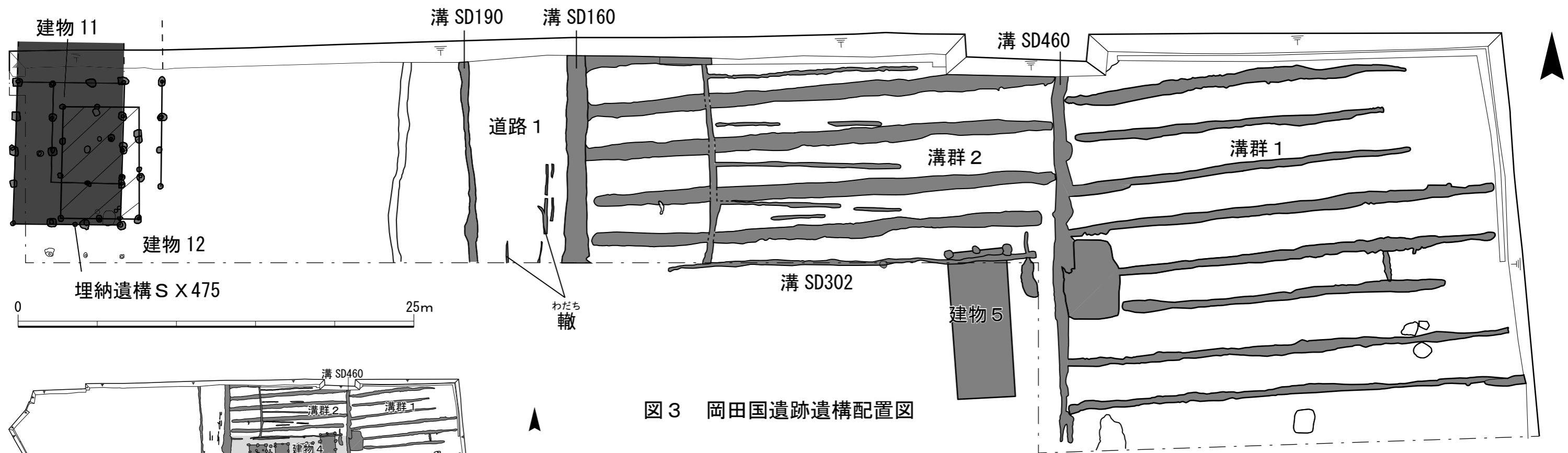


図3 岡田国遺跡遺構配置図

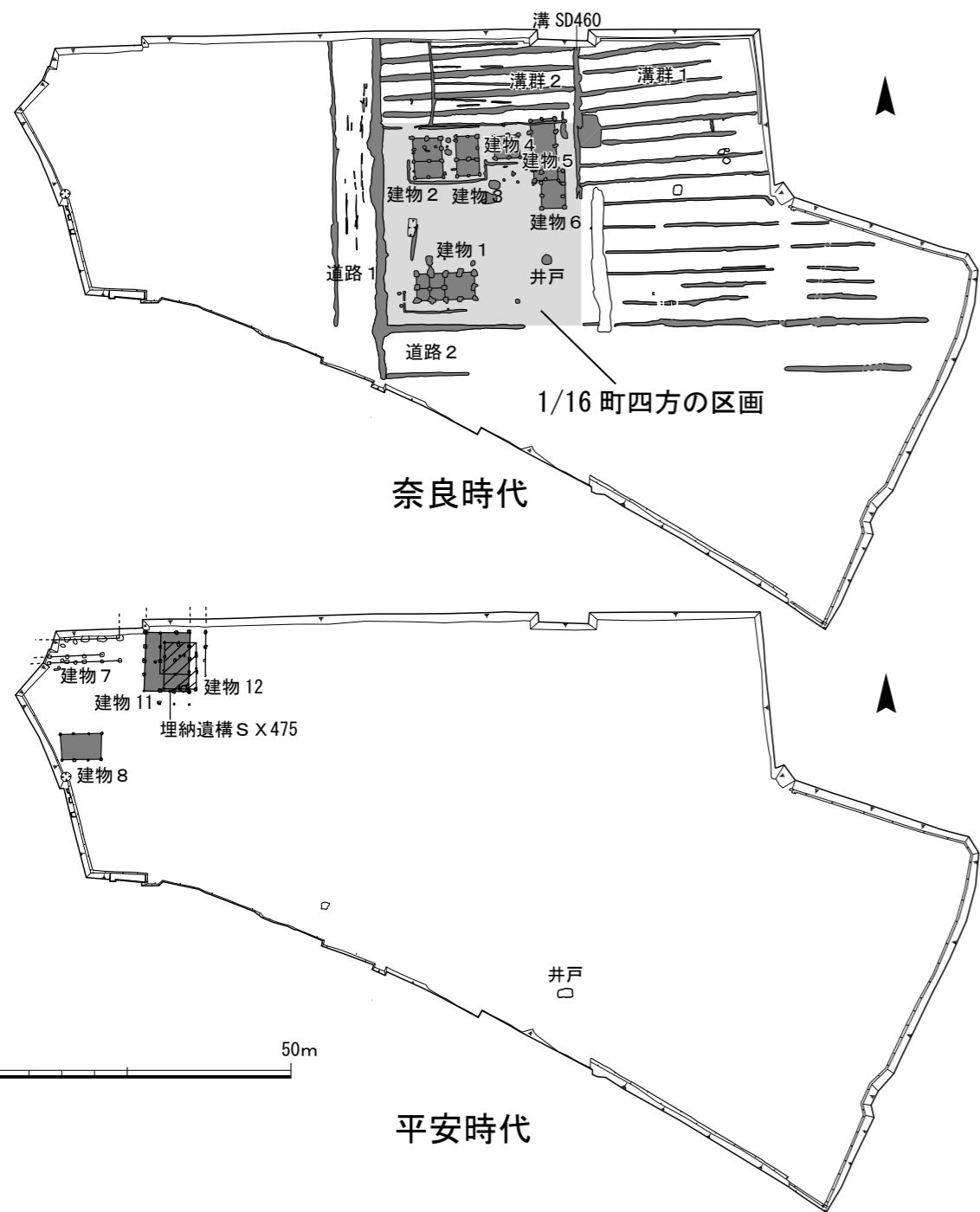


図4 岡田国遺跡遺構変遷図



写真1 建物11・12 全景 (南から)



写真2 溝群2 検出状況 (南西から)



写真3 建物11 柱出土状況 (西から)



写真4 埋納遺構 S X 475 (南から)